

☆ [練習問題] 甲種危険物取扱者試験 「性消」

問1 危険物の類ごとの共通の性状として、正しいものはどれか

- (1) 第二類危険物は、着火の危険性はあるが、引火の危険性はない
- (2) 第一類危険物は、不燃性であり、それ自体は燃焼しない
- (3) 第三類危険物は、水と接触すると発熱し、発火する
- (4) 第五類危険物は、酸素含有物質であり、酸化性を有する
- (5) 第六類危険物は、強酸であり、腐食性を有する

問2 次の物質のうち、貯蔵容器の栓に通気のための穴を設けなければならないものはどれか

- (1) アルキルアルミニウム
- (2) ベンゼン
- (3) エタノール
- (4) 硝酸エチル
- (5) 過酸化水素

問3 各類の危険物に対する代表的な消火方法として、不適切なものはどれか

- (1) 第一類危険物の火災には、水で分解温度を下げる方法が一般的によく用いられる
- (2) 第二類危険物の火災には、注水消火が有効であるが、注水できないものがある
- (3) 第四類危険物の火災には、窒息消火が行われる
- (4) 第三類危険物の火災には、一般に注水ができないので、泡による消火が行われる
- (5) 第五類危険物の火災には、大量の水による消火が行われる

問4 次に掲げる第一類危険物の性状として、誤っているものはどれか

- (1) 過酸化ナトリウムは、純粋なものは白色であるが、普通は黄白色の粉末である
- (2) 三酸化クロムは、暗赤色の針状結晶であり、水を加えると腐食性の酸になる
- (3) 硝酸カリウムは、無色の結晶であり、吸湿性や潮解性を持つため、固化する傾向がある
- (4) 過マンガン酸カリウムは、黒紫色または赤紫色の結晶であり、約 200°Cで分解する
- (5) 塩素酸カリウムは、無色の結晶または白色の粉末であり、赤りんや硫黄との混合物は、わずかな刺激で爆発する危険性がある

問5 硫黄の性状として、誤っているものはどれか

- (1) 水より重い
- (2) 摩擦などにより発生する静電気は、放電することがある
- (3) 粉末状のものは、空気中で飛散すると粉塵爆発の危険がある
- (4) 加熱により約 80°Cで溶融し始める
- (5) 青い炎をあげて燃える

問6 第三類危険物の性状として、誤っているものはどれか

- (1) ハロゲン元素と激しく反応する
- (2) ほとんどのものは、自然発火性と禁水性の両方の性質を持っている
- (3) 可燃性の物質、不燃性の物質がある
- (4) 水と接触すると酸化物を生じ、強い酸性を示す
- (5) 常温において、固体のものと液体のもの両方が存在する

問7 アセトアルデヒドの性状の説明として、誤っているものはどれか

- (1) 無色透明の液体である
- (2) 沸点は20°Cであり、非常に低い
- (3) 酸化すると酢酸を生じる
- (4) 水に溶けない
- (5) 還元するとエタノールを生成する

問8 第五類危険物の火災予防と消火方法について、誤っているものはどれか

- (1) 燃焼の抑制作用があるハロゲン化物消火剤が使われる
- (2) 大量の水による冷却する方法が一般的である
- (3) 分解しやすいものは、室温、湿気、通風に注意する
- (4) 貯蔵する際は、必要最小限の量とする
- (5) 取り扱う際、衝撃、摩擦などを避ける

問9 硝酸の貯蔵・取り扱いについて、誤っているものはどれか

- (1) 光により分解して、腐食性の二酸化窒素を発生する
- (2) 腐食性があるため、ステンレス鋼製容器による貯蔵は避ける
- (3) 強い酸化力を有するので、可燃物、還元物質と接触しないようにする
- (4) 鉄、ニッケル、クロムは、希硝酸に侵されるため貯蔵容器として使用できない
- (5) 腐食作用が強く、生体に対し有毒である

問10 二硫化炭素の性状として、誤っているものはどれか

- (1) 発火点は100°Cより低い
- (2) 無色透明の液体である
- (3) 水には溶けないが、エタノールやジエチルエーテルに溶ける
- (4) 保存方法は水中保存である
- (5) 燃焼に際しては、有毒な硫化水素を発生する